薬学科 化学 生物 英語 般 数学 化学 特 生物 待 英語 生 数 学 医 療 ビジネス 化学 生物 英語 数学 般 国語 化学 特 生 物 別 英語 奨 数 学 学 生 国語

解答

医療ビジネス薬科学科(四年制)

一 般 入 試 語

数学

玉

語

答

|| 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

## 登呂遺跡の発掘

クニであり、現在の見方からすれば、安倍川のたび重なる氾ランで運ばれた土砂でつくられた沖 積平野に切りひらかれた開コン地 であった。 多くて九十人をこえることはなかったであろう、と言われている。しかし、当時の見方からすれば、登呂の地は、疑いもなく一つの 静岡県で発掘された有名な登呂遺跡は、この時代の、どちらかといえば片田舎の小さな村であったようだ。その人口は六、七十名、

多数の人びとの心を一つにまとめ、さらに農耕を適切に行っていくには、この方法が、ゆるされた唯一の方法であった。と同時に、こ れ目に、種々の年中行事を、村じゅうあげて行いながら、農耕を進めていったのであろう。文字も科学もない原始的な社会にあって、 かりでなく、灌漑のための水利工事を行う共同作業も必要であった。そこで、人びとは宗教的な指導者を中心に、稲作の各段階のき 縄文中期ごろからの長い年月が、しだいに、その機運を、日本に成熟させていたのだ。 れらの技術は、一朝一夕にできあがるようなシステムではない。むろん、水稲農業とともに輸入された多くの技術もあったろう。 とられなければならない。 もともと、水稲農業には、そうとう手のこんだ技術が必要とされている。季節の移り変わりにしたがって、つぎつぎに適切な手段が  $\Pi$ |、日本全土の原住民の間に、驚くべき速さで、稲の耕作が普及したという事実は、原始栽バイが始められたと思われる Ι 、 暦や気象に対するある程度の知識をもたなければならないことは言うまでもない。 それば

## Δ

ができない。が、祭に用いられたと思われる赤くぬられた杉で作った刀が発見された。この点から見れば、 登呂は、 小さな開拓村であったから、階級的な差別がなく、縄文時代の伝統をうけつぐ竪穴住居と、ほとんど差を見いだすこと Ш 年長者を中

と杭とを打ちこんだ畦をかきめぐらし、さらに灌漑用の長い水路をつくる大工事を行った。| 心に祭书を行いながら、生活が続けられていたことは疑いない。村人たちは一致協力して、約二万坪もある広大な水田を耕し、矢板田・柴田やいた田 IV 一、その収穫物は、集落の中央に

もっと、ととのった資料が発見された。これをもとにして、現在、登呂には復元倉庫が建てられている。 南洋諸島の倉庫に多く見られる。これらのことから、高床倉庫の規模がほぼ推察されるが、さらに静岡県山木遺跡から同種のもので、 床に接する部分につけられた楕円形の円板であって、地上から上がってきた鼠が、上へ昇れないように工夫されたもので、いまでも、 ある二つの高床式倉庫に、共有のものとしておさめた。 二つの高床倉庫の存在は、それぞれの柱根と、木のハシゴと、 鼠 返 しが残っていたことからわかった。 鼠返しとは、柱・ハシゴのホホータጵタネ

み合わせには斧・のみ・ちょうな・横挽きの 鋸 ・くさびなどの鉄製工具が必要である。ところが、この時代に、日本で鉄が生産され ていたという、はっきりした証拠はない。したがって、それらの鉄工具は、海外から輸入されたものか、かりにそうでなくとも、 、んな貴重品であったろう。これまで、このような鉄工具で建築を作りうるのは、そうとうの支配者であろうと考えられていた。 この倉は、日本建築史にとっては驚くべき発見であった。というのは、たくさんの板が組み合わさって板壁ができているが、その組

からである。これらの工作技術は、法隆寺の五重の塔を建てる技術と、基本的な点では、ほとんど同じなのである。 をつくるには、最少四人の共同作業が必要である。四方の板わくを組んで、同時に上からおとしこむために、四隅に最少一人ずついる |、登呂とか山木とかいった辺キョウに近い開拓村でも、それが使用されていたことがわかったわけである。そして、この倉

ぎょく くさぶき くきぶき くきがん できの大嘗宮をみても、板材が少しも使われていないことにお気づきであろう。これから数百年後になっても、だったはずである。さきの大嘗宮をみても、板材が少しも使われていないことにお気づきであろう。これから数百年後になっても、 できない。筋のよい木を選び、くさびを打ちこんで、それを割り、板を作ったのであろう。当時としては、板はたいへんな貴重品 また、水田の矢板にも驚かされた。当時は、横挽きの鋸だけで、縦挽きのものはなかった。したがって、鋸でひいて板を作ることが

極 天皇が、草葺でなく、板で屋根をふいた宮殿をつくった時、とくに飛鳥板蓋 宮と名づけたほどであった。登呂の水田では、こ

の貴重な板が、ふんだんに使われていた。その労力たるや、たいへんなものであったろう。

学 学 生 玉 語 答

解

## 登呂の洪水

を吹き荒らし、いくつかの竪穴式住居の大きな屋根を押し倒した。屋根は炉の上におちて発火し、二、三軒から火の手が上がっ 近い夏から秋へかけてであったことは、コガネムシやクワガタなどの昆虫の遺体から推察されるところであった。まず、強風が登呂村 しかし、ついに運命の日が今から約千八百年前、このクニにやってきた。台風がこの地方を襲ったのである。その時期が、収穫に間

た。当時の最高技術を結集して建てられた二つの高床の倉は、嵐の中に立っていた。

に土砂を流した。たてつづけに、これを三回くり返して、住居を押し流し、水田を埋め、高床倉を押し倒した。 に明るい村人たちは、危険をさとり、家財をもって避難した。 はたして登呂川は氾ランし、流れに近い方には砂利を、遠い方には一面 風がおさまるにしたがって、登呂のすぐ北側を流れていた安倍川の古い流れである登呂川の水位が、しだいに上昇してきた。水利

とともに、それをかついで、新しい「クニ占め」のために、いずこともなく去っていったのである。 風と洪水の恐ろしさを感じた。二度と、この土地に住みたいとは思わなかった。彼らは、地上に首を出していた住居の柱をぬき、家財 洪水の後、避難地からもどった人びとは、自分たちの村や水田が、完全にうずもれてしまったのを見いだし、いまさらのように、暴

出典(川添登「民と神の住まい」)

注2 皇極天皇 第二五代天皇。女帝。在位六四三~四五。 土木・建築の基礎工事で、土砂の崩壊や水の浸入を防ぐために打ち込む板状の杭

) 氾ラン ① 展ラン会を開催する。

傍線部の一分と同じ漢字を含むものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

問1~5

②空ランを埋める。

⑤ 出ランの誉れ

産ランの時期になる。

薬	学科	
化学		
生物	_	
英語	般	
数学		
化学	特	
生物	往	
英語	待	
数 学	生	
医 ビシ	療 ジネス	
化学		
生物	-	
英 語		
数 学	般	
国語		
化学	特	
生物	別	
英語	奨	
数学	学	
国語	生	

答

問 6 10 問 2 問 4 (E) 1 (†) 空欄 辺キョウ 祭ギ 栽バイ 開コン Ι (5) 1 (5) 1 (5) 3 1 3 1 ギ式を行う。 バイ率が上がる。 苦しいキョウ地に立つ。 状キョウが変化する。 キョウ土を愛する。 ギ論が白熱する。 感染症をバイ介する。 バイ償金を払う。 会場がコン雑する。 お遊ギの発表会 発想が貧コンだ。 コン親会を開く。 V 2 2 2 2 4 自分をギ牲にする。 正ギを貫く。 黒部キョウ谷 バイ審員制度 キョウ怖を覚える。 未コンの大地 細菌をバイ養する。 コン気のいる仕事

しかし に対応している。 ②そこで ③ ところが |に当てはまる最も適当な語句を、次の中から一つずつ選べ。なお、I~Vはそれぞれ問6~ 10 ④ おそらく ⑤そして

薬学科

問 11 次の中から一つ選べ。 傍線部 a 「宗教的な指導者」とあるが、そのような指導者がいたと考えられる根拠は何か。 その説明として最も適当なものを、

- 階級的な差別がなく、竪穴住居と、ほとんど差を見いだすことができない。
- 2 村人たちは一致協力して、広大な水田を耕した。
- (3) 倉を作るのに、最少四人の共同作業が必要であった。
- (5) 登呂の地は、疑いもなく一つのクニであった。 祭に用いられたと思われる赤くぬられた杉で作った刀が発見された。

問 12 傍線部b「この方法」とはどのような方法か。次の中から最も適当なものを一つ選べ。 片田舎の小さな村々の、六十~九十人くらいの人びとが平野を切りひらいた方法。

- 2 暦や気象に対するある程度の知識をもつという方法。

3

原住民が水稲農業に積極的に関わっていった方法。

宗教的な指導者を中心に、年中行事を行いながら、農耕を進めていった方法。

年長者が村民を絶対服従させて農耕をやらせる方法。

問 13 (3) 2 (5) 傍線部 c 「その機運」とあるが、どのような機運か。次の中から最も適当なものを一つ選べ。 縄文中期に稲作が始まったこと。 灌漑のための水利工事を行うこと。 種々の年中行事を、村中あげて行うこと。 稲の耕作を普及させること。 水稲農業とともに多くの技術が輸入されたこと。

- 高床倉庫の存在 空欄 - A の見出しにふさわしい語句を、次の中から選べ。

問 14

- ② 驚くべき発見
- ③ 鉄工具の不思議
- 法隆寺の五重の塔の技術

4

り貴重な板

問 15 当なものを一つ選べ。 傍線部 4 「その労力たるや、たいへんなものであったろう。」とあるが、どういうことに対して言ったのか。次の中から最も適

- ② 飛鳥板蓋宮をつくった時、板で屋根をふいたこと。① 筋のよい木を選び、くさびを打ちこんで、それを割り、板を作ったこと。
- ③ 法隆寺の五重の塔を建てたこと。
- ④ 倉をつくるのに、最少四人の共同作業が必要だったこと。

化 学 生 物 英語 般 数 学 化 学 特 生 物 待 英 語 生 数学 医 療 ビジネス 化学 生 物 英 語 数学 般 围 語 化 学 特 生 物 別 英 奨 語 数 学 学 生 国語

解答

薬学科

	薬学科		
	_	化学	
		生物	
	般	英 語	
		数 学	
	特	化学	
	待	生物	
		英語	
	生	数学	

医 療 ビジネス 化 学 生物 英 語 数学 般 玉 語 化 学 特 生 物 別

> 奨 語

学 学 玉 語

解 答

(5) 倉庫の柱・ハシゴを工夫して作ったこと。

問 16 傍線部 e「当時の最高技術」とあるが、具体的にどのようなことを指すのか。次の中から最も適当なものを一つ選べ。

- 2 1 竪穴式住居が村中に立ち並んでいること。 高床の倉が、柱根と、木のハシゴと、 鼠 返 しで出来ていること。
- 矢板と杭とを打ちこんだ畦や灌漑用の水路をつくったこと。 ゃいた くい あぜ かんがい 教製工具を使い、たくさんの板を組み合わせて、板壁ができていること。鉄製工具を使い、たくさんの板を組み合わせて、板壁ができていること。
- 最少四人の共同作業で、四方の板わくを組んで、同時に上からおとしこむこと。

問 17 この文章の内容に合っているものを、次の中から一つ選べ。

- 登呂遺跡の住居は、縄文中期ごろと異なる竪穴住居であった。
- 2 暦や気象の知識なしでも灌漑の水利工事を行うことができる。
- 村の指導者は、権力を持ち、種々の年中行事を行うことを許可しなかった。
- 登呂とか山木といった開拓村でも、斧やのみなどの鉄工具で建物を建てた。

登呂が洪水に見舞われたとき、村人たちは何も持たずに立ち去った。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

おかしな挙動を始めたことがある 晩秋のある日、陽ざしの明るい午後だったが、ラジオが洋楽をやり出すと間もなく、部屋の隅から一匹の蜘蛛が出て来て、壁面で

どうも香しくない。目立たぬままに次第弱りというのかも知れないが、それはとにかく、一日の大半を横になって、珍しくもない八 四年目に入っている私の病気も、一進一退というのが、どうやら、進の方が優勢らしく、春は春、秋は秋と、年ごとの比較が、

畳の、二、三ケ所雨のしみある天井を、まじまじと眺めている時間が多いこの頃である。 もう寒いから、羽虫の類は見えないが、蠅どもはその米杉の天井板にしがみついていて、陽のさす間は、縁側や畳に下りてあっちこ

っちしている。私の顔なんかにもたかって、うるさい。

方からはみ出すほどの大きな蜘蛛だ。それが何でもこの八畳のどこかに、二、三匹はひそんでいるらしい。一度に二、三匹出て来たこ とはないのだが、慣れた私の目には、あ、これはあいつだ、と、その違いが直ぐ判る。 蠅の他に天井や壁で見かけるのは、蜘蛛である。灰色で、 薄 斑 のある大きな蜘蛛だ。左右の足を張ると、障子のひとこまの、狭い。 すすまだら

も持っていたことのあるヴィクターの、ハイフェッツ演奏の大盤に違いなく、鳴り出すと私には直ぐそれと判ったから、何か考えてい たことを放り出し、耳は自然とその派手な旋律を迎える準備をした。 壁面でおかしな挙動を見せた奴は、中で一番小さいかと思われる一匹だった。レコードの、「チゴイネル・ワイゼン」――昔、

——浮かれ出しやがった、と私は半ば呆れながら、可笑しがった。幾分、不思議さも感じた。牛や犬が、音楽 ——人間の音楽にそそらどうこうというのではなく、何かこう、いらいらしたような、[\_\_\_A\_\_]足つきで、むやみにその辺を歩き廻るのだ。 た恰好で壁面を歩き廻り始めたのだ。蜘蛛の踊り――とちょっと思ったが、踊るというほどはっきりした動作ではない、曲に合わせて と思うと、ちょっと立ち止まった。見るともなく見ていると、そいつが、長い足を一本一本ゆっくりと動かして、いくらか弾みのつい やがて、ぼんやり放っていた視線の中に、するすると何かが出て来たが、それが蜘蛛で、壁の角からするすると一尺ほど出て来たか

薬学科 化 学 生 物物 英 語 般 数 学 化 学 特 生 物 待 英語 生 数 学 医 療 ビジネス 化 学 生 物 英 語 数 学 般 围 語 化 学 特 生 物 別 英 奨 語 数 学 学 生 国語

解答

取りかね、私は疑わしい目つきを蜘蛛から離さなかった。曲が終わったら彼はどうするか、そいつを見落とすまいと注視をつづ れることがあるとは聞いていたし、殊に犬の場合は、私自身実際に見たこともあるのだが、蜘蛛となると、ちょっとそのままには受け

の壁の隅に姿を消した。それは何か、しまった、というような、少してれたような、こそこそ逃げ出すといったふうな様子だった。 曲が終わった。すると蜘蛛は、卒然といった様子で、静止した。それから、急に、 ―だった、とはっきりいうのもおかしいが、こっちの受けた感じは、確かにそれに違いなかった。 例の音もない В |素ばしこい動作で、もと

先ずそんな感じだった。 かったかも覚えていない。音に対して我々の聴覚とは違う別の感覚を具えている、というようなことがあるのかないのか。 は何も判らぬのだが、この事実を偶然事と片づける根拠を持たぬ私は、その時ちょっと妙な感じを受けた。これは油断がならないぞ 蜘蛛類に聴覚があるのかないのか私は知らない。ファーブルの「昆虫記」を読んだことがあるが、、こんな疑問への答えがあったかな つまり私に

このことに関連して、私は、偶然蜘蛛をある期間閉じ込めたことのあるのを憶い出す。b

とると、中から一匹の蜘蛛が走り出て、物陰に消えた。足から足まで一寸か一寸五分の、八畳の壁にいる奴とは比較にならぬ小型のだ ったが、色は肉色で、体はほっそりしていた。 夏の頃、暑いうちはいくらか元気なのが例の私が、何かのことで空瓶が要って、適当と思われるのを一本取り出し、何気なくセンを

まとめておいたものだ。蜘蛛が入ったのは、、その一日の間のことに違いない。 綺麗に洗わせ、中の水気を切るため一日ほど倒さにして置き、それからゴミやほこりの入るのを防ぐためセンをして、何かの空箱に

やめた。彼はただ、凝っと、機会の来るのを待った。そして半年――。私がセンをとった時、蜘蛛は、 陥っている状態のどんなものかをさとっただろう。あらゆる努力が、彼に脱走の不可能を知らしめた。やがて彼は、じたばたするのを 出口をふさがれた彼は、多分初めは何とも思わなかったろう。やがて何日か経ち、空腹を感じ、餌を捜す気になって、そこで自分の 実際に、間髪を容れず、という

それからもう一度

素速さで脱出した。それは、スタート・ラインで|

С

|を待つ者のみが有つ素速さだった。

ちに、私か誰かが戸を開けたのだろう。一枚の硝子にへばりついていた蜘蛛は、二枚の硝子板が重なることによって、幽閉されたのだ。 足から足三寸ほどの、八畳にいるのと同種類の奴だった。硝子と硝子の間には彼の身体を圧迫せぬだけの余裕があっても、重なった戸 を大きく眺めることが出来る。ある朝、その窓の二枚の硝子戸の間に、一匹の蜘蛛が閉じ込められているのを発見した。昨夜のう 八畳の南側は縁で、その西はずれに便所がある。男便所の窓が西に向かって開かれ、用を足しながら、梅の木の間を通して、富士山

よって、生きていた。今度のは、丸々と肥えた、一層大きな奴だ、こいつとの根気比べは長いぞ、と思った。 その硝子戸を閉めるな、といいつけた。空瓶中の蜘蛛は、約半年間何も喰わず、粗雑な木のセンの、極めて僅かな空隙からする換気に 私は、前の、空瓶の場合を直ぐ憶い出した。今度は一つ、 彼の行く末を見届けてやろう、そんな気を起こした。私は家の者どもに、 のワクは彼の脱出を許すべき空隙を持たない。

下に、鈍く音なく白く光る富士、未だ星の光が残る空に、頂近くはバラ色、胴体は暗紫色にかがやく暁方の富士――そういう富士山の 肩を斜めに踏んまえた形で、蜘蛛は凝っとしているのだ。彼はいつも凝っとしていた。幽閉を見つけ出したその時から、彼のあがきを 度も見たことはなかった。私が、根気負けの気味で「こら」と指先で硝子を弾くと、彼は、仕方ないといった調子で、僅かに身じろ 用便のたび眺める富士は、天候と時刻によって身じまいをいろいろにする。晴れた日中のその姿は平凡だ。真夜中、冴え渡る月光の

学 物 英 語 数 学 化 学 生 物 英 語 数 学 医 療 ビジネス 化 学 生 物 英 語 数学 围 語 化 学 特 生 別 英 奨 語 数 学 学 生 玉

語

答

妻は興味ない調子だ。つまらぬ物好き、蜘蛛こそ迷惑、といった調子だ。 私は妻のその調子にどこか D

更に半月たった。明らかに蜘蛛は細くなって来た。そして、体色の灰色が幾分あせたようだ。

「とにかく、逃がさないでくれ」といった。

さ、という気持ちで黙っていた。 つづいて「逃げた」ときこえた。相変わらず横になってぼんやりしていた私は、蜘蛛を逃がしたな、と思ったが、それならそれでいい もう少しで二タ月になるというある日、それは、壁間の蜘蛛の散歩を見た何日かの後だったが、便所の方で、「あ」という妻の声がし、

たようだ――そんな、いいわけ混じりの妻の説明を、私は、うんうんときき流し、命 冥加な奴さ、などとつぶやいた。実のところ、に手をかけた、半分ほど引いて気がついたときは、もう及ばなかった、蜘蛛の逃げ足の速いのには驚いた、まるで待ちかまえてい 蜘蛛を相手の根気くらべも大儀になっていたのだ。とにかく片がついた、どっちかといえば、 に手をかけた、半分ほど引いて気がついたときは、もう及ばなかった、 いつも便所掃除のときは、硝子戸を重ねたまま動かしたりして蜘蛛の遁走には気をつけていたのだが、今日はうっかり一枚だけ 好い方へ片がついた、そんなふうに思っ

出典(尾崎一雄「虫のいろいろ」)

注1 チゴイネル・ワイゼン スペインの作曲家サラサーテのバイオリン曲。

間 18 傍線部 a 「おかしな挙動」とあるが、どのような挙動か。次の中から最も適当なものを一つ選べ。

壁の角からするすると一尺ほど出て来たと思うと、ちょっと立ち止まったこと

長い足を一本一本ゆっくり動かして、いくらか弾みのついた恰好で壁面を歩き廻り始めたこと。

左右の足を振ると、障子のひとこまの、狭い方からはみ出すほどの大きな動作をすること

2

- ④ 牛や犬のように、人間の音楽にそそられて動き出すこと。

生 国語

問 19 〜 20 問20に対応している。 空欄 A В に当てはまる最も適当な語句を、 次の中から一つずつ選べ。 なお、 A・Bはそれぞれ問 19

するするとした

② そわそわした

③ さらさらした

④ びくびくした

(5) ギクシャクした

問 21 〜 22 傍線部⑦、 ①の本文中における意味として最も適当なものを、 次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

3 4 2 堂々 平気 だしぬけ あたりまえ びっくり

問 21

Ø

2 (1) 命がけで行動すること。 命からがら逃げること。

3 4 命がふしぎに助かること。 命を粗末にすること。

問 22

1

命冥加

5 命ごいをすること。

問 23 傍線部b「このこと」とあるが、どういうことを指すか。次の中から最も適当なものを一つ選べ。

- 蜘蛛の聴覚について、ファーブルの「昆虫記」に書かれていないこと。
- 2 蜘蛛が八畳のどこかに、二、三匹はひそんでいるらしいこと。

菜	学科	-
化学		
生物	_	
英 語	般	
数学	XIII	
化学	特	
生物	待	
英語		
数学	生	
医	療	Ę
医 ビシ	療 ジネス	
医ビル	療 ジネス ——	
化	療 ジネス <del></del>	
化学生	療 ジネス —	
化学 生物 英語 数学	療 ブネス ー 般	
化学 生物 英語 数	-	
化学 生物 英語 数学 国		
化学 生物 英語 数学 国語 化	-	
化学 生物 英語 数学 国語 化学 生		

答

薬学科

- 3 蜘蛛が天井板にしがみついていたこと。
- 4 蜘蛛の動きにちょっと妙な感じを受けたこと。
- (5) 蜘蛛が壁面を歩き廻り、素ばしこい動作で姿を消したこと。

問 24 \( \)
25 問 24 С 空欄 1 出発 С 2 D 走行 |に入れる語として、それぞれ最も適当なものを次の中から選べ。 3 号砲 4 勝敗 (5) 結果

問 25

D

1

同調する

2

抵抗する

3

嘆く

4

懇願する

(5)

憤る

問 26 傍線部C「今度は一つ、彼の行く末を見届けてやろう、そんな気を起こした。」とあるが、なぜそう思ったのか。その理由とし

- 1 て最も適当なものを、次の中から一つ選べ。 蜘蛛を瓶の中に偶然閉じ込めたが、半年後すぐに脱出してしまったから。
- 2 蜘蛛が壁面を歩き廻り、すぐに逃げてしまったから。
- (3) 蜘蛛が二枚の硝子戸の間に閉じ込められていたから。
- 4 蜘蛛が脱出できるだけのすき間がなかったから。
- (5) 蜘蛛が一枚の硝子にへばりついていたから。

問 27

(1) 傍線部d 擬態語 「身じまいをいろいろにする。」とあるが、このような表現技法を何と言うか。次の中から一つ選べ。

2 擬声語 3 直喩 4 隠喩 (5) 擬人法

薬学科 化 学 生 物 英 語 般 数 学 化 学 特 生 物 待 英 語 生 数 学 医 療 ビジネス 化 学 生 物 英 語 数 般 学

問 28 傍線部e「とにかく片がついた、どっちかといえば、好い方へ片がついた、そんなふうに思った。」とあるが、この時の私の気

- 持ちの説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。
- 初めから、蜘蛛を逃がす気でいたので、さっぱりしたと思っている。
- 2 蜘蛛が逃げたのは、蜘蛛の自由なので気にもとめないと思っている。

自分の命と蜘蛛の命は平等なので、蜘蛛の行動をしばれないと思っている。

3

- 4 蜘蛛が逃げて、妻と口げんかをすることもなくなり、ほっとしている。
- (5) 蜘蛛が逃げたのは、妻のせいだとわかっていても許せないと思っている。

29 蜘蛛を発見した場所を順番に並べた場合、どの順番が正しいか。次の中から一つ選べ。

問

壁面→硝子戸の間→瓶の中 壁面→瓶の中→硝子戸の間

2

(1)

- 4 瓶の中→硝子戸の間→壁面 瓶の中→壁面→硝子戸の間
- (5) 硝子戸の間→瓶の中→壁面

問

- 30 この文章の表現上の特徴として最も適するものを、次の中から一つ選べ。
- 1 私の日常を感傷的に描き、蜘蛛への同情を表現している。
- 3 2 私の日常に舞い込んだ蜘蛛の存在を見下して表現している。 私の日常を淡々と描き、蜘蛛の挙動を客観的に表現している。
- 私と妻との会話を多用し、 夫婦間の交流を描いている。
- 私の絶望的な病気との闘いを描き、 悲愴感を表現している。

特 別 奨 学

围 語 化 学 生 物 英 語 数 学 生 玉

> 解 答

語

医療ビジネス薬科学科(四年制)

玉 孟

特別奨学生入試

化 学 生物 英 語 般 数 学 化学 特 生物 待 英 語 生 数学 医 療 ビジネス 化 学 般 特

薬学科

生物 英 語 数 学 玉 語 化学 生 別 物 英 語 奨 学 数 学

解 答

国語

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

僕の行っていた中学校は九段の靖国神社のとなりにある

気な感じのする建物であった。

鉄筋コンクリート三階建の校舎は、その頃モダンで明るく健康的といわれていたが、僕にとってそれは、いつも暗く、重苦しく、陰

でも、中途で休んで落伍してしまう。体操の時間にバスケット・ボールの試合でもあると、僕は最初からチームの他の四人の邪魔にな 以上の苦手だった。野球、テニス、水泳、鉄棒、などもだが、マラソンのように不器用でも誠実にがんばりさえすれば何とかなる競技 らぬよう、飛んでくる球をよけながら、両手を無闇にふりまわして、「ドンマイ、ドンマイ」などと、わけもわからず叫んで、 り方に長じているとか、ラッパかハーモニカがうまく吹けるとか、そんな特技らしいものは何ひとつなく、なかでも運動ときたら学業 僕は、まったく取り得のない生徒であった。成績は悪いが絵や作文にはズバ抜けたところがあるとか、模型飛行機や電気機関車の作

番多く残っていた。 黒い長い卓子について食事するとき、僕はひとりで誰よりも先に、お汁の実の一番いいところをさらってしまう、そんな時だけは誰よ りも素ばしこくなる性質だった。そのくせ食べ方は遅くて汚く、ソースのついたキャベツの切れ端や飯粒などが僕の立ったあとには |ユートのまわりを駈けまわっていた。おまけに僕は、まったく人好きのしないやつであった。地下室の食堂で、全校生徒が

は、折れた鉛筆や零点の数学の答案に交じって、白墨の粉で汚れた古靴下、パンの食いかけ、ハナ糞だらけのハンカチ、そういった種 類の思いがけないものばかりが、 担任の先生にしらべられるのだが、他の連中は、タバコの粉や、喫茶店のマッチや、喧嘩の武器になる竹刀のツバを削った道具や、そ んなものが見つかりはしないかと心配するのに、僕ときたら同じビクビクするのでも、まったくタネがちがうのだ。僕のポケットから 僕はまた、あの不良少年というものでさえなかった。朝礼のあとなどに、ときどき服装検査というものが行われ、ポケットの中身を В と飛び出して、担任の清川先生や僕自身をおどろかせるのだ。

そんなとき、清川先生はもう怒りもせず、分厚い眼鏡の奥から冷たい眼つきでジッと僕の顔をみる。すると僕は、くやしい気持ち

化 学 物 英 語 般 数 学 化 学 特 生 物 待 英 語 生 数 学 医 療 ビジネス 化 学 生 物 英 語 数学 般 玉 語 化 学 特 生 物 別 英 奨 語 学 数学 生 国語

薬学科

解

(まアいいや、どうだって) と、つぶやいてみるのである。 にも、なることができず、ただ心の中をカラッポにしたくなって、眼をそらせながら、

下に一人で出ている方が好きだった。たまたま、ドアの内側で、先生が面白い冗談でも言っているのか、級友たちの「ワッ」という笑 思っているので、先生は、めったに僕に指名したりはしない。 魔だというわけか、しばしば廊下に出されて立たされることもあった。けれども僕は、教室の中にいるよりは、かえって誰もいない廊 い声の上がったりするのが気になることはあったけれど……。そんなとき、僕は窓の外に眼をやって、やっぱり、 教室でも僕は、他の予習をしてこなかった生徒のように C |と不安がりはしなかった。どうせ僕にあてたって出来っこないと しかし、たまにあてられると僕はかならず立たされた。教室にいては邪

が見えた。朝、遅刻しそうになりながら人通りのないその小路を、いそぎ足に横切ろうとすると不意に、冷たい、甘い匂いがして、足 一周四百メートルのトラックでいっぱいになって、樹木は一本も生えていなかったが、小路を一つへだてた靖国神社の木立

(まアいいや、どうだって)と、つぶやいていた。

もとに黄色い粒々の栗の花が散っていた。

み」のやってくる前ぶれだ。やがて、オートバイの曲乗りや、楽隊の音や、少女の合唱や、客を呼ぶ声が、参詣人の雑沓に交じって毎 さえ聞きとれなくなってしまうのだ。そして、教室の校庭に面するすべての窓からは、そうしたテントの街の裏側をすっかり見わたす ことができたのである。 日、絶え間なくひびき、それらの物音が、 上げてあるが、それが一日のうちに組み上げられて境内全体が、大小さまざまの天幕の布におおわれてしまう。それは僕らにとって「休 春と秋、靖国神社のお祭りがくると、あたりの様子は一変する。どこからともなく丸太の材木が運びこまれて、あちらこちらに積み 土 埃 に混じった食べ物の匂いのただよう風に送られてくると、校庭で叫ぶ教官の号令の声

いつか僕は、目立って大きいサアカス団のテントのかげに、一匹の赤茶色い馬がつながれているのを眼にとめた。それは肋骨がすけ

僕には見当もつかなかったが、それはみるからに、いたいたしかった。 うど鞍のあたる部分が大そう彎曲して凹んでいることだった。いったい、どうしてそんなに背骨が凹んでしまうことになったのか、 てみえるほど痩せた馬だった。年とっているらしく、毛並みにも艶がなかった。けれども、その馬の一層大きな特徴は、背骨の、ちょ

そんなことを考えていると僕は、だまってときどき自分のつながれた栗の木の 梢 の葉を、首をあげて食いちぎったりしているその馬 リしたにちがいない。それで、ああやって殺しもできないで毎年つれてきては、お客の目につかない裏の方へつないで置くのだろう。 が、やっぱり、 来ないものだから、曲芸団の親方にひどく殴られたのだろうか。殴ったあとで親方はきっと、死にそうになった自分の馬をみてビック 自分一人、廊下に立たされている僕は、その馬について、いろいろ考えることが好きになった。彼は多分、僕のように怠けて何も出

## (まアいいや、どうだって) と、つぶやいているような気がした。

れでいいのか」と、そんなふうに言われても僕は何も答えることがない。別に見ようと思って何かを見ていたわけでも、休もうと思っ と日を反射させている有様を、いつまでもながめているといった風だった。「おい、ヤスオカ!」と名前を呼ばれて、清川先生から、「お えられたが、そんなときでも僕は、われしらず赤土の上に腰を下ろして頰杖をつきながら、とおくを流れている大きな川の背に 気で念願する子どもだった。学校ではときどき生徒を校外へつれて行き、そこで木の根を掘ったり、モッコをかついだりすることを教 て休んでいたわけでもないのだから 前は一体、そんなところで何をしているのだ。みんなが一生懸命はたらいているときに自分一人が休んでいて、そ びながら、こうしてポカポカとあたたまりながら一生の月日がたってしまったら、どんなにありがたいことだろうと、そんなことを本 実際、僕は何ごとによらず、ただ眺めていることが好きだったのである。ひなたの縁台にふとんが干してあると僕はその上に寝ころ

僕の頰っぺたに飛んでくる しかたなしに、だまっていると、清川先生の唇は三角形に曲がり、眼がイラ立たしそうに光って、分厚い手のひらが音を立てながら

薬学科 化 学 物物 英語 般 数 学 化 学 特 生 物 待 英語 生 数 学 医 療 ビジネス 化 学 生物 英 語 数 学 般 玉 語 化 学 特 生 別 英 語 数学 学 生 国語

答

医 療 ビジネス

るろくろ首のお化けや、拳闘対柔道の大試合なんかに大した興味はない。お祭りで学校が休みになれば、気のきいた連中は日比谷か は何ということもなしに境内をあちらこちら人波にもまれながら歩いていた。 新 宿 ヘレヴィウか映画を見に行ってしまう。僕だって、どうせ遊ぶのならそっちの方がいいにきまっていると思うのだ。けれども僕 靖国神社の見せ物小屋のまわりをブラつくことにしてもそうだった。もう、そのころの僕らの齢ごろでは、インチキにきまってい

らしくなった。いくら、ただ食べさせておくのが勿体ないからといって、何もあんなになった馬を見せものにしなくたっていいじゃな 内をみわたしながら僕は、はっとして眼を見はった。……あの馬が見物席の真ん中に引っぱり出されてくるのだ。僕は団長の親方が憎 ぽい座ぶとんをしいて、熊のスモウや少女の綱わたりなど同じようなことが果てもなく続く芸当を、ぼんやり眺めていた。が、ふと場 だから、その日、僕がサアカスの小屋へ入って行ったのも別段、何の理由もなかったのだ。僕はムシロ敷きの床の上に、汚れた湿っ

歩き方だ。……しかし、どうしたことか彼が場内を一廻りするうちに、急に楽隊の音が大きく鳴り出した。と、見ているうちに馬はト をガクガクゆすぶりながらやってくる。鞍もつけずに、いまにも針金細工の籠のような胸とお尻とがバラバラにはなれてしまいそうな コトコと走り出した。 馬は、ビロードに金モールの縫いとりのある服を着た男にクツワを引かれながら、申し訳なさそうに下を向いて、あの曲がった背骨

からばっ おどろいたことに馬はこのサアカス一座の花形だったのだ。人間を乗せると彼は見ちがえるほどイキイキした。 馬本来の勇ましい 妙な歩き方をしたり、後ろ足をそろえて台の上に立ち上がったり……。いったいこれは何としたことだろう。あまりのことに僕は 活潑な動作、その上に長年きたえぬいた巧みな曲芸をみせはじめた。楽隊の音につれてダンスしたり、片側の足で拍子をとるように奇 にあがっていた曲芸師が、馬の背中に ―― ちょうどあの弓なりに凹んだところに ――飛びついた。拍手がおこった。 しばらくアッケにとられていた。けれども、思いちがいがハッキリしてくるにつれて僕の気持ちは明るくなった。 まわりの人は皆、眼をみはった。楽隊がテンポの速い音楽をやり出すと、馬は勢いよく駈け出したからだ。すると高いポールの上

息をつめて見まもっていた馬が、いま火の輪くぐりをやり終わって、ヤグラのように組み上げた三人の少女を背中に乗せて悠々と

薬学科 問 6 問 5 2 傍線部b「僕はまた、あの不良少年というものでさえなかった。」とあるが、どういう意味か。次の中から最も適当なものを一つ 傍線部 a 「人好きのしないやつ」とあるが、どういう意味か。次の中から適当なものを一つ選べ。 注1 レヴィウ 他人に好かれないやつ 不良少年が服装検査でびくびくするのを軽蔑するような人間だった。 他人を好かないやつ 不良少年のようになりたいと思ってもなる勇気がないような人間だった。 他人を出し抜こうとするやつ 1 不良少年が服装検査でびくびくするのをじっと見つめるような人間だった。 不良少年のように服装検査でびくびくするようなタイプの人間でもなかった。 不良少年が服装検査でびくびくするのを面白がる人間だった。 1・問2・問3・問4に対応している。 空欄 ひょいひょい 般 A ダンスと音楽を中心にした、はなやかなショー 特 ② どかどか D 待 |に入れる語として、最も適当なものを次の中から選べ。なお、 生 2 4 ③ じわじわ 医 療 ビジネス 他人にすり寄ろうとするやつ 他人を避けようとするやつ 4 チカチカ 般 (5) 特 ソワソワ 別

化

学

生

物

英 語

数 学 化 学

生

物

英語

数 学

化学

生物

英

語

数学

玉 語

化 学

生 物

英 奨 語

数学 学

生 国語

> 答 解

駈け廻っているのをみると、僕はわれにかえって一生懸命手を叩いている自分に気がついた。

出典

(安岡章太郎「サアカスの馬」)

A・B・C・Dは、それぞれ問

解 答

生物

英

問 7 傍線部C「(まアいいや、どうだって) とつぶやいていた。」とあるが、このときの気持ちを説明したものとして最も適当なもの 次の中から一つ選べ。

- 自分の気持ちを他人の前で言えないのでくやしがっている。
- 2 自分の気持ちを他人に言っても理解してもらえないと思っている。
- 自分の気持ちを他人に言わないほうが得だと思っている。
- 自分の気持ちを他人に伝えようとしても言葉が見つからないと思っている。
- 自分の気持ちは、いずれ他人にわかってもらえると思っている。

問8 の中から一つ選べ。 傍線部 d「(まアいいや、どうだって)と、つぶやいているような気がした。」とあるが、その理由として最も適当なものを、次

- 痩せた馬が、曲芸団の親方に殴られて痛みをこらえていたから。
- 2 痩せた馬が、 死にそうになったのに誰も助けてくれなかったから。
- 痩せた馬が、 お客の目の前で曲芸に失敗してしまったから。
- 痩せた馬が、 栗の木の梢の葉を食いちぎって暇を持て余しているように見えたから。
- 痩せた馬が、 怠けて何も出来ないので、あきらめているように見えたから。

問9 傍線部 e 「そんなふうに言われても僕は何も答えることがない。」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の中から一つ

- 自分一人が休んでいることに、特別な理由がなかったから。
- 自分一人が休んでいることを、清川先生にとがめられたから。

薬	学科	
化学		
生物		
英 語	般	
数 学	<b>利又</b>	
化学	特	
生物	待	
英 語	1ਚ	
数 学	生	
	$\overline{}$	
医 ビシ	療 ゾネス	
医ビン化学	療ジネス	
化	療ジネス	
化学生	療ジネス	
化学 生物 英	療ブネス	
化学 生物 英語 数	_	
化学 生物 英語 数学 国	般	
化学 生物 英語 数学 国語 化	_	
化学 生物 英語 数学 国語 化学 生		

答

- ③ 自分一人が休んでいることが後ろめたかったから。
- ④ 自分一人が休んでいることを級友たちに非難されたから。
- ⑤ 自分一人が休んでいることで、みんなに迷惑をかけたと思ったから。
- 10 傍線部f「ちょうどあの弓なりに凹んだところ」とあるが、「あの」と言った理由を次の中から一つ選べ。

問

- ① 僕が引っぱり出されてきた馬を見て、真っ先に眼についたところだったから。
- 僕が引っぱり出されてきた馬を見て、格好良いと思ったところだったから。
- 僕が引っぱり出されて来た馬を見て、一番飾り立てられているところだと思ったから。
- 僕が初めて馬を眼にとめたときに、気になったところだったから。
- 僕が初めて馬を眼にとめたときに、馬が痛そうにしていたところだったから。
- 問 傍線部g「思いちがい」とあるが、このことを説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選べ。 僕は馬が痩せていると思ったが、実は筋骨たくましかったということ。
- 》 僕は馬が自由に動けると思ったが、実は曲芸師に操られていたということ。
- 僕は馬が何も出来ないと思っていたが、実はサアカスの花形だったということ。
- 僕は馬の背骨が曲がっていると思っていたが、曲芸が始まるとまっすぐに伸びたということ。
- 受 僕は馬が歩けないと思っていたが、走り出せたということ。

化 学

生物

英語

数学

国語 化学

生 別 物

国語

学 数 学

解答

12 傍線部h「僕の気持ちは明るくなった。」とあるが、その理由として最も適当なものを、 次の中から一つ選べ。

① 馬が曲芸をこなしているのを見て、アッケにとられたから。

問

- ② 馬が曲芸をこなしているのを見て、自分も勇気が湧いてきたから。
- ③ 馬が曲芸をこなしているのを見て、自分もやってみたくなったから。
- ④ 馬が曲芸をこなしているのを見て、みんなに自慢したくなったから。
- 》 馬が曲芸をこなしているのを見て、みんなにも見せたいと思ったから。

問 13 この文章の表現上の特徴として最も適するものを、次の中から一つ選べ。

② 時間の流れを前後させ、読者の想像力を駆り立てている。

会話を多用し、登場人物の心情を効果的に表現している。

1

③ 擬態語を多用し、登場人物や馬の様子を生き生きと表現している。

⑤ 風景描写が力強く、粗削りである。 ④ 抽象的な語彙を多用し、論理的に表現している。

- 24 -

どもだけが、群れを離れて近づいて来る。 も海に出て、何日も帰って来ない。その間、たくさんの子どもたちは皆いっしょに集まっている。親が帰ってきて呼ぶと、自分の子 動物の親と子がお互いを識別できることは、よく知られている。コウテイペンギンでは、子どもがある大きさに達すると、

を匂いと声で区別することができるという。 多くの動物では、親子は、子の生後すぐ、お互いを識別する必要がある。羊や山羊では生後数時間内に、親は自分の子と他人の子

申し合わせたように、一~二時間内に全部孵化してしまう。親はひなが全部そろうと、すぐ巣からひなを安全なところへ連れていかな ければならないので、卵が全部いっしょに孵ってくれると(A)がよい。 これは少しヨ談になるが、ひなどうしが孵化前に語り合うという報告も出ている。ウズラやカモ類では一組十何個の卵がお互いに

卵を人工孵卵器で温めると、全部孵るまでに一~二日間かかってしまう。 ように並べておくと、全部一~二時間内に孵るのである。 に接触しているものもあれば接触していないものもある。それを孵卵器中でも、 に密接に接触している。近代の孵卵器では、卵は孵る予定日の二日程前に平たいかごに移されるのであるが、卵はばらばらで、お互い I 孵る予定日の二日程前に卵をお互いに密接に接触する 野生のウズラやカモの巣を見ると、卵がお互い

て、そのなかにいるひなを刺激し、孵化をうながすものと考えられている。 ひなは孵化する前に声を出すし、卵の殻をつつく音とか他の音も出すのである。これらの音が隣の卵に次つぎに伝わることによっ

遅いものではそれを促進しなければならない。その証拠に、孵卵中の一組の卵を、 の卵に 組の卵のなかには平均より成長が速いものも遅いものもあるはずであるから、 B |させると、前者は予定日より早く、後者は遅く孵化するのである。 同時に孵化させるには速いものでは成長を抑え、 孵化予定日の二日前に、一日早く孵卵を始めた一組

薬学科 化 学 生 物 英 語 般 数 学 化 学 特 生 物 待 英 語 生 数 学 医 療 ビジネス 化 学 生 物 英 語 数学 般 玉 語 化 学 特 生 物 別 英 奨 語 学 数 学 生 国語

解答

場合でも、個体識別が必要なこともある。そのよい例は、縄張りを持つ動物である。 以上のように、 | C |のなかで社会生活をする動物では、個体識別が大切であることはよくわかる。  $\Pi$ 

が多い。この場合、隣の鳥を眼で見て、他の鳥から区別できるほどには、はっきりと見えない。 ここで、小鳥の歌に話を戻そう。歌には個体差があることは、すでに述べた。縄張りを持っている鳥では、 個体間の距離が遠いこと

先に述べた百瀬のウグイスの例では、縄張りを持つ雄は、隣の縄張りから隣人の歌の録音を聞くと、自分の縄張り内からなきかえ

す。ところが、四キロも離れたところの鳥の歌をおなじように、隣の鳥の縄張りのなかで流すと、自分の縄張りから出てきて、隣の縄

張りに侵入してきてなきかえす

歌で個体識別をする時、一個体が二つ以上の歌を持っていると、どういうことになるのか。 その歌が聞こえても興フンしない。しかし、同じところから聞きなれない歌が流れてくると、そこまで出かけて行くのである。 このことは、近所の鳥と他の鳥を歌で区別できることを示している。隣人の歌はいつも聞き覚えているので、その鳥の縄張りから

多いほどむずかしくなるはずである。実験によると、一般に各個体が一つしか歌を持っていない種では、二つ以上持っている種 てでも個体識別ができる。しかし、それでは、鳥はお互いに隣人の歌を全部覚えなければならないことになる。 この場合には、どの歌で個体識別をするのかという問題がおこる。一個体の持っている歌が全部他の鳥の歌と違えば、どの歌を使っ Ш

歌による個体識別がよくできることがわかっている。しかし、最近これに反する事実も報告されている。

最後に、歌による個体識別が何の役に立つか考えてみることにしたい。

う<u>ケイ</u>告するのである。近所の縄張りとのキョウ界をめぐって、最初は少し喧嘩もするが、二、三日すれば安定して、その後は、歌 だけで個体の区別をして、お互いに<u>キョウ</u>界を侵さないようになる。したがって、歌の個体識別は鳥の社会安定のためにも必要なので 鳥は体あたりで喧嘩してけがをしたり、喧嘩の最中に他の動物に殺されたりしないよう、仲間に音の信号を発信し、侵入しないよ

出典(小西正一「小鳥はなぜ歌うのか」)

薬学科 間 化 14 問 17 問 間 問 15 学 ~18 傍線部の~のと同じ漢字を含むものを、 16 14 生物 田 (†) 1 B 英語 ケイ告 ヨ談 興フン 不思ギ 般 数学 化 1 学 1 (5) 1 (5) 3 1 3 3 3 (5) 特 (5) 生 銀行にヨ金する。 自分をギ牲にする。 恩ケイを受ける。 ガスがフン出する。 疑うヨ地がない。 送球を中ケイする。 ケイ快に走る。 ギ名を使う。 税制についてギ論する。 名ヨを回復する。 物 フン起して勉強する。 フン争を処理する。 待 英語 生 数学 医 療 ビジネス 次の中からそれぞれ一つずつ選べ。 化学 生物 2 2 4 2 4 2 4 4 英 ヨ定を変更する。 事件に関ヨする。 語 会場周辺をケイ備する。 ギ問が残る。 フン囲気がよい。 正ギ感が強い。 ケイ帯を忘れる。 フン別が足りない。 数 学 般 玉 語 化学 特 生 物 別

英 語 奨

数 学

解答

国 語



解 答

問 18 キョウ界 1 キョウ土の歴史を調べる。 2 新事業にキョウ力する。

労力を提キョウする。

3

4 逆キョウに耐え抜く。

キョウ泳で勝利する。

(5)

19 \( \)
21 問19・問20・問21に対応している。 空欄 Ι  $\mathbf{III}$ に当てはまる最も適当な語句を次の中から一つずつ選べ。なお、 I · Ⅱ · Ⅲは、 それぞれ

1 しかし 2 そうすると

問

3 ところが

**④**そこで

(5) そして

問 22 〜 24 問 22 空欄 В |に入れる語として、それぞれ最も適当なものを次の中から選べ。

В Α 1 孵化 立場

問 23

C

1

2

3

4

海辺

2 刺激 野山

(2)

都合

3 3 結果 接近

4 4 便利 接触

(5) 格好 同化

(5)

(5)

問 25 傍線部 a 「孵化前に語り合う」とあるが、このような表現技法を持つ文を次の中から一つ選べ。

- 町全体が深い悲しみに沈んでいた。
- 2 すし詰めの電車に乗って、学校に通う。
- 3 彼は鉄の意志を持つ男だ。
- **(**4**)** 子供のころの思い出は、まるで夢のようだ。
- 空には綿のような雲が浮かんでいる。

薬学科 化 学 般 特 待 生 般 特 別 奨

問 26 傍線部b「四キロも離れたところの鳥の歌」と同じ意味内容を表す言葉を次の中から一つ選べ。

- 聞きなれた歌
- 2 聞いたことがある歌
- (5) 聞くにたえない歌

(3)

聞きなれない歌

4 聞いても分からない歌

問 27 傍線部 c 「そこ」とは、どこを指すか。 次の中から一つ選べ。

- (2) 四キロ離れた縄張り 自分の縄張り
- (3) (4) 自分と隣との中間にある縄張り 隣の縄張り
- 四キロ以上離れた縄張り

問 28 傍線部 4 「一個体が二つ以上の歌を持っていると、どういうことになるのか。」とあるが、その説明として当てはまらないもの

次の中から一つ選べ。

2 一般的に歌による個体識別がよくできる。

全部他の鳥の歌と違えば、どの歌を使ってでも個体識別ができる。

- (3) どの歌で個体識別をするのかという問題がおこる。
- 鳥はお互いに隣人の歌を全部覚えなければならない。

(4)

歌の数が多いほど識別がむずかしくなる。

生 物 英 語 数 学 化 学 生 物 英 語 数 学 医 療 ビジネス 化 学 生 物 英 語 数学 玉 語 化 学 生 物 英 語 学 数 学 生 国語

> 答 解

医 療 ビジネス 化 学 生物 英 語 数学 般 玉 語 化 学 特 生 別 物 奨 語 学 数学 玉 語 解 答

問 29 傍線部 e「歌による個体識別が何の役に立つか」とあるが、そのことを具体的に説明したものを、 次の中から一つ選べ。

- 鳥が歌で仲間を追い払うのに必要である。
- 2 鳥が自分の縄張りを広げるのに必要である。
- 3 鳥同士が同じ縄張りで暮らすのに必要である。 鳥が喧嘩するのに必要である。

鳥の社会安定のために必要である。

問 30 この文章の内容に合っているものを、次の中から一つ選べ。

2 1 孵卵器中では、どんな条件でも卵が全部孵るまでに一~二日間かかる。 多くの動物の親は、声だけで自分の子を区別することができる。

4 3 縄張りを持っている鳥は、近所の鳥と他の鳥とを歌で区別できる。 一組の卵を同時に孵化させるには、できるだけ引き離す必要がある。

縄張りを持つ動物は、個体密度が高い。